

朱一らしさを大切にしながら災害に強いまちを目指して 『防災まちづくり』の取組を始めています！

朱一学区では、今年度から『朱一学区防災まちづくり協議会』を立ち上げ、防災まちづくりの取組をはじめました。学区内には、木造家屋が密集するとともに、幅の狭い道や行き止まりの道(袋路)が多く、地震時には、建物の倒壊や火災の燃え広がりなどにより安全な避難が難しく、大きな被害を受ける恐れがあります。朱一らしさを大切にしながら災害に強いまちを目指して、学区全体で取組を進めてまいりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

取組の第一弾として、去る9/20(土)・21(日)・27(土)・28(日)の4日間、路地の状況や地域の防災上の課題などを確認する「防災まちあるき」を開催しました。町内会長や防災部長、朱一小の6年生など、延べ174名の参加のもと、学区内を見て歩きました。

京都新聞に掲載
されました！
(9月24日朝刊)



建物の奥に路地があるんですね。



小学生も道の幅を測ったり、防災上気を付けるポイントを確認しました。



地域の方にいろんなお話を伺いました。

まちあるきの参加者から様々なご意見をいただきました！

「防災まちあるき」で地域の状況を確認した後、参加者全員でまちあるきの振り返りを行うとともに、今後の取組について意見交換をしました。

振り返りで出されたご意見(抜粋)

- すべての路地で対策が必要
- 狭い路地に自転車や植木鉢等が置いてあると避難しにくい
- 落ちそうな瓦や室外機があって危険
- 古い塀が倒れてこないか心配
- 空き家が多かった。管理する人がいないと不安
- 防災まちづくりの取組を情報発信しよう！ など



たくさんのご意見をいただきました！

■みなさんと一緒に防災まちづくりの取組を進めていきます！

今後は、「防災まちあるき」で確認した地域の課題をみなさんで共有するために、路地の状況や防災上役立つ情報を示した「防災まちづくりマップ」の作成や、地域の課題やその解決策等について話し合う「ワークショップ（意見交換会）」等の取組を行っていく予定です。

また、まち全体の安全性を高めるために、袋路の2方向避難の確保などの「すぐにできる対策」を実施するとともに、まちの将来像（方針や計画）についても検討していきます。これらの取組は、地域のみなさんのご意見を踏まえながら進めていきますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

今すぐに取り組めます！

まちを災害に強くするためには、まずは、自宅の耐震改修をするなど、建物を適切に管理することが大切です。さらに、狭い道に面した危険なブロック塀を改修する、袋路の2方向避難経路の確保や袋路入口部分の建物を強くする、老朽化した建物を除却する、空き地を防災ひろばとして活用するなどの対策を実施すると、まち全体の安全性が高まります。

これらの対策については、市の助成制度がありますので、ご協力いただける方は、お気軽に『朱一学区防災まちづくり協議会』（以下参照）のメンバーまでご相談ください。

助成制度の一例

袋路から安全な場所に避難できるようにする工事



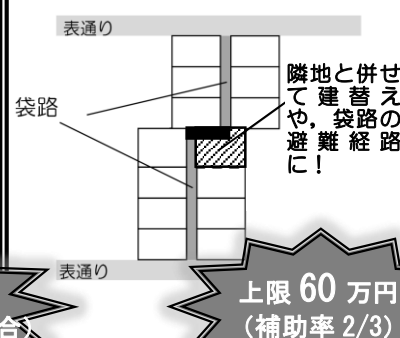
全額補助
(上限 30 万円)

危険なブロック塀を生け垣やフェンス等に改善する工事



約 15 万円
(幅 5m × 高さ 2m の場合)

老朽化した建物を除却する工事



上限 60 万円
(補助率 2/3)

※市の助成制度には対象条件があります。(問合せ先:京都市 まち再生・創造推進室 TEL075-222-3503)

■総合防災訓練を開催します！

平成26年11月9日（日）に、平成26年度朱雀第一学区総合防災訓練を開催します。当日は、避難訓練や避難所設置訓練などに加えて、防災まちづくりの取組や住まいの耐震化に関する説明会を実施します。まちの安全性を高める市の助成制度の紹介等もありますので、是非、ご参加ください。

『朱一学区防災まちづくり協議会』とは？

平成 26 年度に、まちの安全性を高める『防災まちづくり』に取り組むため、自治連合会と自主防災会を中心として結成した組織です。朱一らしさを大切にしながら、災害に強いまちを目指し、京都市と連携して、防災まちづくり活動に取り組んでいきます。

朱一学区防災まちづくり
協議会メンバー
会 長:竹岡 清榮
副会長:古川 岩夫,奥本 詔八郎
委 員:自治連合会理事及び自主
防災会役員,他計15名